

平成25年度

木材需要拡大の活動実績について

- 1 木材需要拡大チームのメンバー構成
- 2 木材需要拡大チームの会議開催状況
- 3 木材需要拡大の活動状況



22

1 木材需給拡大チームのメンバー構成

(座長)佐賀県木材協会 事務局長

- 佐賀県優良住宅建設事業者協議会
- (社)佐賀県建築士会
- 諸富家具振興協同組合
- 特定非営利活動法人「調和の森」
- 佐賀県木材協会
- 市町代表(佐賀市)
- 佐賀東部・西部流域森林・林業活性化センター
- 県関係(建築住宅課、学校教育課、林業試験場、林業課)

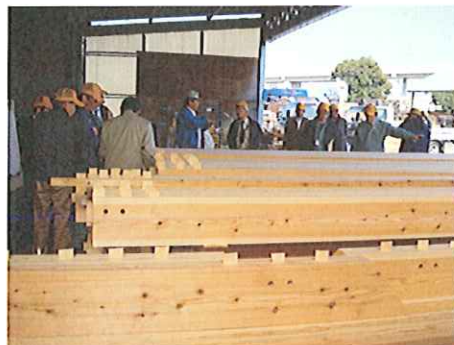
これらの機関・団体の関係者、合計17名で構成

23

2 木材需要拡大チームの会議開催状況

・ 県産木材の需要拡大対策として、ホームページ等を活用したPR、佐賀県産木材地産地消の応援団の活動の推進、「佐賀県公共建築物木材利用促進方針」等による木造化の普及啓発、などについて検討しました。

- ・ 第1回（ 5月15日）：チーム合同会議、活動成果と活動計画について
- ・ 第2回（12月13日）：活動計画に基づく県産木材の広報・PR活動、県産乾燥木材の生産支援など
- ・ 第3回（ 3月11日）：木材の需要拡大に向けた現地研修会の開催
佐賀市内、福岡県筑後市



24

3 木材需給拡大の活動状況

- 1 県産木材の販路拡大の取組（広報・PR活動）
- 2 「佐賀県産木材」地産地消の応援団の活動の推進
- 3 公共建築物の設計者（建築士、行政の建築担当者等）を対象とした木材利用技術セミナーの開催
- 4 県産木材を使用した住宅や公共施設等の情報発信
- 5 県産乾燥木材（AD・KD材）の生産に対する支援と品質等の検討
- 6 木とふれあうイベント「よかウッドフェスタ」の開催

1 県産木材の販路拡大の取組（広報・PR活動）

○ ホームページ「よかウッド」を活用し、森林・林業に関するイベント情報や木材利用啓発に関する記事の掲載を行いました。



年度	アクセス数 (件)
H19	47, 279
H20	83, 599
H21	75, 000
H22	96, 493
H23	85, 656
H24	96, 272
H25	108, 448

※H25：H25.4.1～H26.3.24まで

掲載記事の一例

○ 森林、林業、木材等に関するイベントでのPR活動を行いました。



「諸富家具市」9月14～16日



「ばぶばぶフェスタ」10月27日



「佐賀県きこり選手権」11月16日



「がばいじゃ～もくまつり」10月14日

- ・ 諸富家具市 (9月14～16日)
 - ・ がばいじゃ～もくまつり(10月14日)
 - ・ ばぶばぶフェスタ (10月27日)
 - ・ 佐賀県きこり選手権 (11月16日)
 - ・ 佐賀県農業まつり (2月8日)
- その他、市町主催イベントにパネル等の貸出を行った。

2 「佐賀県産木材」地産地消の応援団の活動の推進

- 県産木材を積極的に利用・PRする企業・団体等を応援団として登録するとともに、県産木材利用PRを兼ねた住宅展示会等の開催支援を行いました。

<H25年度登録者数>

○製材工場	: 11件
○大工・工務店	: 23件
○設計事務所	: 5件
○家具・建具	: 1件
○丸太生産者	: 1件
○企業・団体等	: 4件
計	: 45件



- ・地産地消の応援団PR支援事業を活用した企業：19社
※県産木材利用PRを兼ねた住宅展示会の開催経費等に定額支援(最大150,000円)
- ・推進支援として、のぼり旗やPRパネルの貸出やパンフレット、チラシ、PRグッズの提供を行った。

3 公共建築物の設計者(建築士、行政の建築担当者等)

を対象とした木材利用技術セミナーの開催

- ・平成25年11月6日(水)と平成26年2月3日(月)にグランデはがくれで「公共建築物木材利用技術セミナー」を開催した。(平成26年度は1回開催予定)
・建築士、木材・製材業、行政関係者など、1回目99名、2回目85名の参加。

第1回目

日時:平成25年11月6日(水)
13:30~16:30

会場:グランデはがくれ フラワーホール

参加者:建築士、木材・製材業、行政関係者など 99名

講演 I

演題「県内における木材の現状と課題について」
佐賀県木材協会事務局長 奈良崎 英樹

講演 II

演題「地域材利用にあたり知っておきたい木材利用の基礎知識」
木構造振興株式会社 客員研究員 原田 浩司



第2回目

日時:平成26年2月3日(月)
13:30~16:30

会場:グランデはがくれ シンフォニーホール

参加者:建築士、木材・製材業、行政関係者など 85名

講演 I

演題「木の魅力・木の不思議の伝え方」
熊本大学教育学部 教授 田口 浩継

講演 II

演題「木造公共建築物等の整備にかかる基礎知識」
(株)アルセッド建築研究所 代表取締役副社長 大倉 靖彦



(講演要旨) 第1回目 平成25年11月6日(水)

★講演Ⅰ 「県内における木材の現状と課題について」

- ・木材協会の概要として、現在、県内支部11支部で、172名の会員がいる。
- ・会員は減少している。廃業が目立つ。
- ・木材の流通形態を説明し、製材品の生産量・価格は、県外から大型工場で大量に生産された製品と、県内の小規模な製材所で作られた製品では価格でどうしても県内産が高くなる。
- ・伊万里では、木材の収集、製材、加工の一連を1箇所で行う、「伊万里木材コンビナート」が平成17年から稼働している。集成材の生産が主である。
- ・県の取組として、「県産木材利用推進プロジェクト事業」を行っている。
- ・平成22年10月に「公共建築物木材利用促進法」が施行され、県、市町でも方針が策定され、公共建築物の木造化、内装木質化が進められているところである。
- ・協会としては、JAS製品の普及にも取り組んでいる。
- ・新たに天然乾燥処理のJAS規格を追加される。また、表示寸法との差の見直し等も検討されている。
- ・公共施設等で、木材の指定をされる時、「県産木材」と表記してほしい。たまに「さがの木」とあるが、葉枯らし材のことでありほとんど流通していない。
- ・JAS製品の生産ができるよう体制を整えている。
- ・中、大型木造物件に対応できるよう、地元製材所で共同で出荷する取組を行っている。
- ・在庫情報を協会のHPに掲載している。ぜひ、活用してほしい。

★講演Ⅱ 「地域材利用にあたり知っておきたい木材利用の基礎知識」

- ・よく、木で木材樹種ごとに耐久性の“高い低い”を表記しているが、あれは、心材の耐腐朽性であり辺材は、大差ない。
- ・秋田での実験として、牛舎を鉄骨造から木造に替えたら、搾乳量が増加した。
- ・新築木造は、気密性が高く、木材の特性からして、温度の変化差が小さい。
- ・秋田県は学校の木造化を強く進めている。→学力が高い。(関係性が高いのではないか)
- ・マウスを使った、木とコンクリートの居住時間比較実験では、木材(スギ)に長く居住し、スギとヒノキでは、スギ材に長く居住した(ヒノキの臭いが原因か?)
- ・木造で設計するとき、必要とする材規格があるのか、よく考えたほうが良い。
例 製材品対角線で30cmの材は、だいたい50年生、40cmの材は80年生の木材が必要となる。現在、山から生産される木材は、間伐材が多いので大径木は少ない。
- ・森林の年齢構成からみても、将来、建築用材に適した木材の生産ができるのか不安である。皆伐も視野にいれ、年齢構成の平準化を行う必要がある。
- ・現在の製材工場は、間伐材の大きさにあわせて製材機(直径30cm + α)がほとんどであり、大径木の製材はできない。
- ・製材品の品質を上げるためにも、「乾燥(人工・天然)木材」の生産は必須である。
- ・品質の安定と時間短縮から「人工乾燥」は今後、更に需要が高まる。
- ・プレカットも需要となるため、プレカットCADオペレーターの育成も急務である。
- ・新工法、構造用合板等が今後、多用されてくるだろう。(LVL、CLT)
- ・公共建築物にも、一般流通材を使うことによりコストを抑える事ができる。しかし、加工数の増加とあわせ、接合金具が増え、組み立て手間が増えることにより、結果的にコスト高になる可能性もあるので注意すること。

30

(講演要旨) 第2回目 平成26年2月3日(月)

★講演Ⅰ 「木の魅力・木の不思議の伝え方」

- ・熊本県では、木育への取組を推進している。特に小・中学生。木育の副読本を作成した。
- ・食育は明治時代からあった。木育は北海道が発祥の地。
- ・学校行事で、少年自然の家に行つて研修を行うが、「何故、この場所で行うのか。」本当の意味(木育)を教えていない。
- ・関東地方のある中学校で起こった「木材加工の悲劇」最寄りの駅から苦情の電話。「生徒さんが木製の本立てを駅のゴミ箱に捨てている」。成績を付けてもらえば必要のないもの。このような生徒は、木製品を買わない。木の良さもわからず、木造住宅は建てない。森林の必要性にも気づかない。
- ・学校でできる「木育」のカリキュラムを考えた。先生が使える指導用本も作成した。
- ・熊本県ものづくり塾の生成と展開のひとつとして、「木育指導者養成講座」を開催している。(5年間で23回、869人の修了者)
- ・実物を見せながら説明することは、理解力があがる。
- ・木材利用の法律ができた。各県でも「方針」が策定された。

★講演Ⅱ 「木造公共建築物等の整備にかかる基礎知識」

- ・地域の材料で、地域の工務店を活用した住宅作りを推進している。
- ・材料が残り、技術が残り、木造が残っていく。
- ・戦後の方針で、木造は無くなった。
- ・伊勢湾台風被害以後、木造建築を取りやめようと学会で発表した。
- ・木造建築物は、メンテナンスも考えて、「取り替える」事を考えて設計する。
- ・RCであっても、内装木質化を行うことにより、十分にカッコがつく。
- ・水を遠ざける事、水切りをしっかりとする事が大切である。
- ・JAS指定でなくても、JAS同等製品が主になってくるだろう。
- ・建築にかかるワーキンググループなどで「作る段階」から関わることにより、維持管理(メンテナンス)にも力が入る。
- ・自分の地元で流通している木材がどのようなものがあるのが把握し、建物を計画することが大切である。

31

4 県産木材を使用した住宅や公共施設等の情報発信

- 「佐賀県公共建築物木材利用促進方針」の周知を図るとともに、木材の利用を促すためのPRチラシ・冊子等を配布しました。

主な配布先

- ・ 県庁(全課)
- ・ 市町(建築関係課)
- ・ 建築関係団体
- ・ 林業、木材関係団体
- ・ 家具建具関係団体
- ・ 公共施設係る民間団体(学校、福祉、医療等関係団体)

佐賀県産木材カタログ

木材利用推進中央協議会

5 県産乾燥木材(KD・AD材)の生産に対する支援と品質等の討 〔KD:人工乾燥木材、AD:天然乾燥木材〕

- 消費者が求める「性能の安定した乾燥木材」を安定的に提供できるよう、佐賀県木材協会が中心となり、生産量の取りまとめや在庫状況の情報発信に取り組んでいる。
- 林業試験場において、「人工乾燥と天然乾燥を組み合わせた木材乾燥試験」をH23～H27で行い、品質の検証試験を行っています。

県産木材

KD材
AD材

木材協会
在庫情報の発信 (HP)

情報

建設者
設計者

年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
生産量	140	428	171	207	682	203	114

年度	H24	H25
生産量	1,022	2,809

佐賀県木材協会のHPに、新しく「県産木材在庫情報検索システム」が追加されています。皆さん、活用してください。

6 木とふれあうイベント「よかウッドフェスタ」の開催

- ・平成25年11月2日(土)に、どん3の森広場、アバンセ第2研修室で「よかウッドフェスタ」を開催しました。(平成26年度は平成26年11月1日(土)に同会場で開催予定)
- ・今回も、木とふれあう体験コーナーと併せて、木工工作コンクール表彰式、県下工業高校設計競技表彰式などや、佐賀県建設労働組合連合会による、住宅棟上げ実演・もち投げなども同時開催した。
- ・当日は、約2,000人の参加者がありました。



平成25年度
専門部会

「多角的利用部会」

の活動実績について



- 1 多角的利用部会のメンバー構成
- 2 多角的利用部会の開催状況
- 3 木材の需要拡大に向けた現地研修会

1 多角的利用部会のメンバー構成

- 佐賀県森林組合連合会
- 佐賀県木材協会
- 富士大和森林組合
- 西工業
- 西部木材工業
- 中山リサイクル産業株式会社
- 佐賀県農業協同組合
- 佐賀東部・西部流域森林・林業活性化センター
- 県関係(佐賀県工業技術センター、林業試験場、林業課)

これらの機関・団体の関係者、合計14名で構成

2 多角的利用部会の開催状況

木材の有効利用を図るため、多様な需要に向けた取組や新たな用途について検討・研究を目的とした「多角的利用部会・現地研修会」を開催

第1回会議開催日:平成25年12月13日

内容:「県産木材を利用した机・椅子のコスト削減」について
「薪ストーブの需要拡大に向けた取組」について

第2回会議開催日:平成26年3月11日

内容:「木材の需要拡大に向けた現地研修会」

研修先:佐賀県内、福岡県内



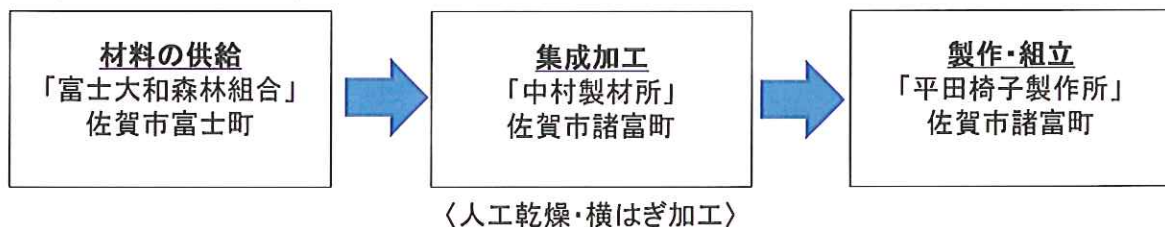
「県産木材を利用した机・椅子のコスト削減」について

■現状(佐賀市からの要望)

県産木材(市産材)で製作された木製机・椅子は、スチール製机・椅子と比較して単価が約3.6倍と高くなっている。

- ・ 机・椅子1セット価格 19,500円(税別)
 - ・ 内訳:部材費・・8,000円 加工組立、納品代、組合手数料・・11,500円
 - ・ 材料・製材コストに経費がかかっている。
 - ・ 家具用部材への再加工が必要。(含水率10%以下、集成材加工、部材の移動)
 - ・ 案件ごとの部材発注、製造となるため、スケールメリットが出せない。
- ⇒現在のところ、価格を下げるのは困難

木製机・椅子の製作の流れ



■比較表の作成



1. 机・椅子(木製)

価格: 19,500円(税別)

製品紹介: 佐賀県(佐賀市)産杉材を活用し、諸富家具製造技術を活かして製作した学童用机・椅子(すべて木製)



2. 天板(木材)・スチールフレーム(新品)

価格: 17,100円(税別) ※300セットの場合

製品紹介: 県産木材とスチールフレームを組み合わせたハイブリッド製品



2. 天板(木材)・スチールフレーム(リユース品)

価格: 未定(要検討)

製品紹介: 既存のスチール机に天板を県産木材へ取り替えて再利用する

多角的利用部会では、上記3タイプについて製作コスト比較表を作成し現状や課題(メリット、デメリット)について整理をした。

■課題(検討結果)

- 材料の供給体制の効率化
- ロット数の確保
- 製品の改良
- 木製机・椅子の導入による情操教育の推進(木製の意義)

■まとめ

- 当部会は、木材の供給・加工の行政・技術分野の関係者で構成しているが、木製机の実務者レベルの関係者がいないことから、**課題解決には限界**がある。(机上での検討しかできない)
- 当事者である佐賀市に、①材料供給部門、②集成加工部門、③製作組立部門の関連企業を含めた実務者レベルの**「木製机・椅子コスト削減検討チーム(案)」**の体制づくりを提案(平成26年5月8日付け依頼)
- 佐賀市では、平成27年度以降、学校の改修(内装木質化)、また改修に伴う木製机・椅子の導入は未定であり、現在、導入に向けた検討をはじめている。今後、導入が決定すれば、関連企業を集め、コスト削減に向けて検討をする。

「薪ストーブの需要拡大に向けた取組」について

■平成24年度までの取組み

平成25年3月に熊本県阿蘇市へ薪利用の取り組みについての先進地視察研修会を開催した。



■平成25年度取組み

- 1 イベント開催における薪ストーブのアンケートの実施
- 2 県内における薪ストーブの動向について
 - ・薪ストーブ利用者の声
 - ・「薪ネット」の取組み紹介



1 イベント開催時における薪ストーブアンケートの実施

■薪ストーブアンケートの実施
 11月2日に佐賀市内で開催した「よかウッドフェスタ」内で『薪(ペレット)ストーブ』のアンケートを実施した。
 薪ストーブを**すぐにでも購入したい方**は全体の**4%**であった。(4名/126名)



■木質ペレットストーブの展示
 「よかウッドフェスタ」内で『ペレットストーブ』の展示を行い、来場者からは注目を集めていた。



2 県内における薪ストーブの動向

■薪ストーブ利用者の声・アンケートの回答及び利用者への聞き取りの結果、薪ストーブの評価を下記のとおりまとめた。

<p>■購入しようと思ったきっかけについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己所有林があるため、薪の入手が容易であることと、光熱費も安くあがり、家のデザインにも合うと思った ・以前から欲しかった ・実物を見て欲しくなった 	<p>■薪ストーブを使用して良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暖房能力が高い ・燃料費が安い ・本物の炎を楽しめる ・家族団らんの場所になった ・癒しや安らぎを与えてくれる ・心地よい暖かさが得られる
<p>■薪の調達方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の山から調達している。(斧による手作業等) ・知り合いの山から調達している。 	<p>■薪ストーブを使用して悪かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薪の調達が大変(週末が調達でつづれる) ・煙突掃除などのメンテナンスが大変
<p>■薪の種類について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広葉樹(主にシイ・カシ・タブ)※メーカーの勧め スギやヒノキも使用。松は煤が付きやすく、メンテナンス料が発生するため、使用しない。 	<p>■薪の使用量について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間4~5m³ ※薪は平均4~6kg/日 ※参考:灯油1ℓ=薪2kg

薪ストーブの評価について  **非常に満足**

「薪ネット」の取組み紹介

・「薪ネット」は、インターネットを利用した、薪ストーブ関連商品の販売を行っており、木質燃料の「薪」を身近なエネルギーとして見直し、その対価として得たお金を活用することによって、森林を健全に保全し循環型社会の構築に貢献していくこととしています。

・そこで「薪ネット」は、地域の森林組合と手を組むことでその取組みが始まりました。

薪ネットTAKEO

・(販売)デザインニコ×(生産)武雄杵島森林組合

薪ネットKIYAMA

・(販売)デザインニコ×(生産)城戸生産森林組合



「薪ネット」の取組み紹介

薪ネットTAKEO

生産量(H25現在 48~50t)

目標量(一定の生産量 50t)

※現在、組合の機械保管庫にストックしている。



薪ネットKIYAMA

所有林の整備(除伐等)の際に発生した針葉樹・広葉樹を処分せずに、薪として生産して、ストックしている。



まとめ

- ・薪ストーブを使用するにあたっては、利用者がメリット・デメリットを正しく理解する必要がある。
- ・アンケートの結果から、詳細な情報の提供不足も考えられることから、新規ユーザーを確保するためには、さらなるPRを行う必要がある。
- ・薪の利用も木材需要拡大の一つであるため、現在、武雄市で検討されている薪ストーブの購入助成などの取組を注視しながら、薪ストーブの普及PRを行っていく。



3「木材の需要拡大に向けた現地研修会」



クリーク防災工事現地視察：佐賀市北川副町
県産間伐材を活用した佐賀平野のクリークの木柵護岸工事の現地視察



レグナテック株式会社視察：佐賀市諸富町
家具の製作状況視察・諸富家具振興共同組合理事長樺島氏との意見交換



九州木材工業株式会社視察：福岡県筑後市
新時代の保存処理木材「エコアールウッド」製品の視察



佐賀市若楠小学校視察：佐賀市若宮
学校改修(内装木質化)に伴う、木製机・椅子の導入状況の視察